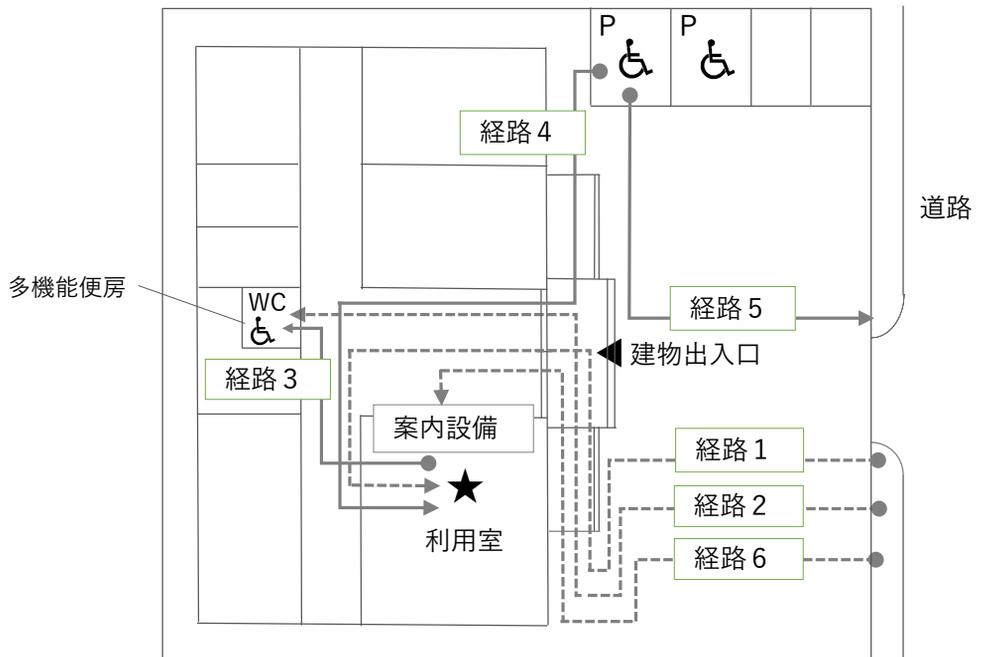


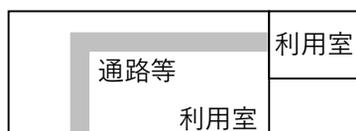
確保が必要な経路について



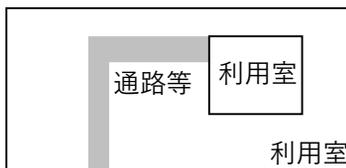
利用室内における「廊下等」の考え方

原則として、一般的な利用室内部の部分に対して「廊下等」の整備基準は適用しませんが、次のような事例においては、利用室内であったとしても「廊下等」の基準を適用します。

①利用室内を経由して、別の利用室に至る経路にあたる通路等



②利用室内に別の利用室を内包する場合における当該最小単位となる利用室に至る経路にあたる通路等

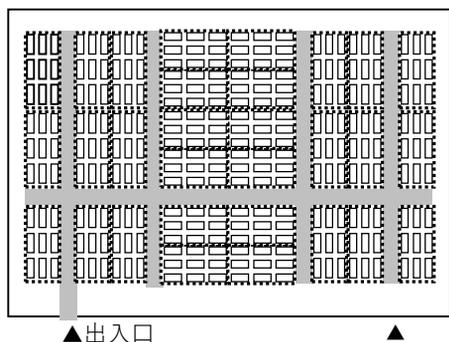


③利用室内の主要な通路等

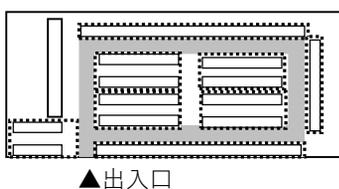
※売場・陳列棚、飲食店の客席の外見上の概ねの区画（以下「売場等区画」という。）を利用室②における最小単位の利用室同等として扱い、一定の通路については主要な通路として「廊下等」の基準を適用します。

その他の通路は、店員等の人的対応が講じられることを前提に、基準の適用外とします。

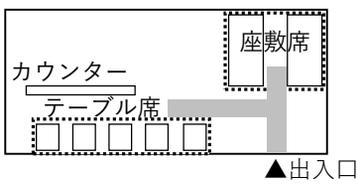
《大規模小売店舗の想定例》



《コンビニ店舗の想定例》



《飲食店舗の想定例》



- 【凡例】
- 「廊下等」の基準を適用する通路等
 - 売場等区画
 - 陳列棚又は飲食店の客席

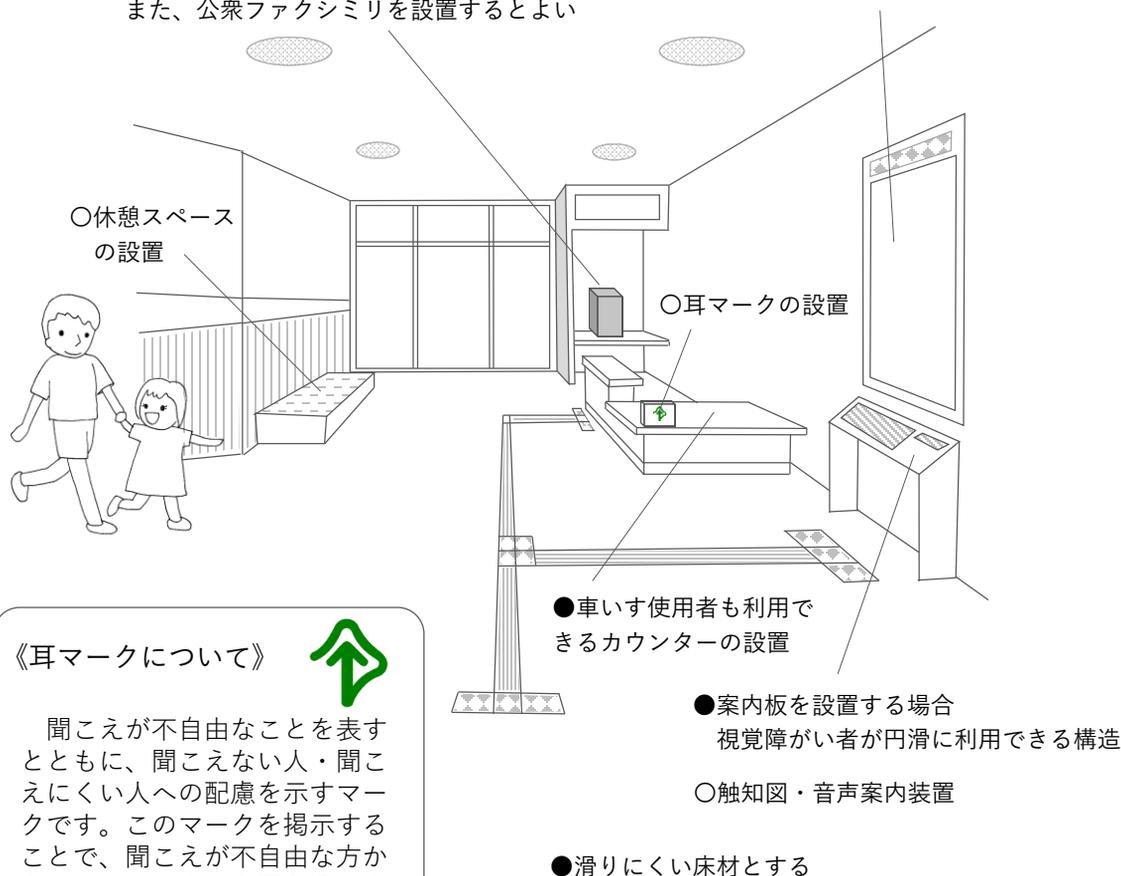
情報提供の例

○公衆電話を設置する場合、車いす使用者に使いやすいように設置高さは70cm程度とする

受話器は、ボリュームコントロール付きがよい、また、公衆ファクシミリを設置するとよい

●案内板を設置する場合

車いす使用者用駐車区画、昇降機、多機能便房などを表示

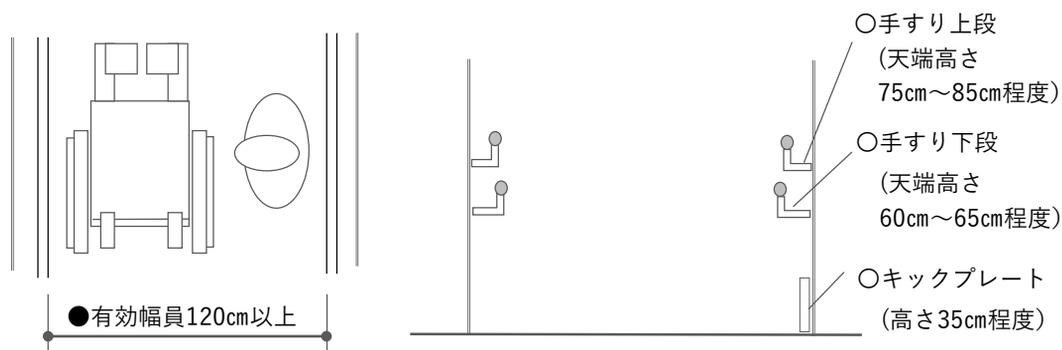


《耳マークについて》



聞こえが不自由なことを表すとともに、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を示すマークです。このマークを掲示することで、聞こえが不自由な方からお申し出により必要な援助を行うという意思表示ができます。

廊下の幅員



※有効幅員120cm

廊下を車いす使用者が通行しやすい寸法

車いす使用者と横向きになった人がすれ違うことができる寸法

松葉づえ利用者が円滑に通貨できる寸法

●整備基準 ○望ましい基準 ※特記事項

修正図のみ

